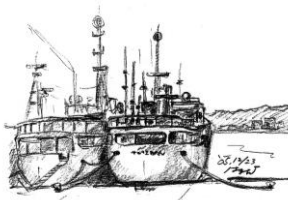
ビキニ被災支援　室戸の会ニュース　2024 年 10 月08 日 №61

発行　ビキニ被災を支援する室戸の会　　太平洋核被災支援センター

連絡先　事務局　宿毛市 088-066-1763（山下）　室戸の会 0887-35-8725（濵田）



「サモア船団」について

1955 年以降の状況

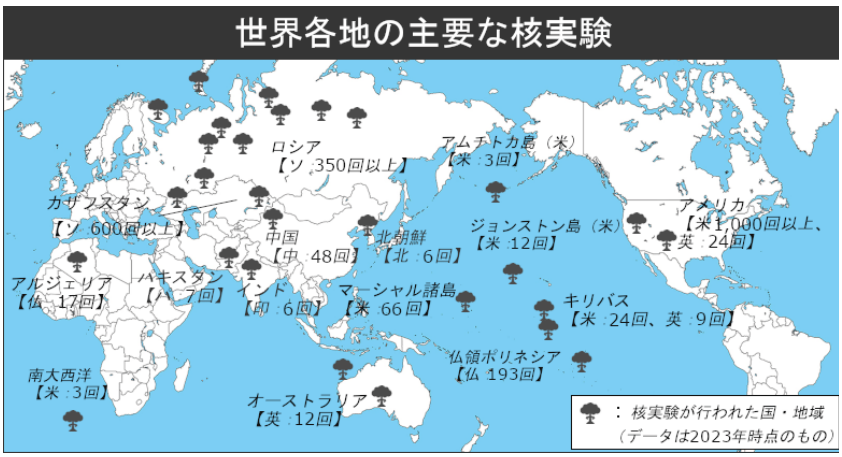
1954 年 3 月～5 月のビキニ水爆実験は、実験の規模もとても大きかったこと、近くで操業していた第五福竜丸の被ばくが明らかになり、9 月には久保山愛吉さんが亡くなったということもあり、アメリカ政府と日本政府は早期に幕引きを図るために 1955 年に 200 万ドルの「見舞金」で政治決着を図りました。ビキニ水爆実験の責任はアメリカにはなく、今後の補償問題についてもアメリカの関与するところではないということで合意したのです。

さすがにその年は核実験を控えていましたが、アメリカは翌年 1956 年から核実験を再開します。1956 年にはマーシャルで 17 回、1958 年にはマーシャルで 32 回。ジョンストン島で 2 回。1962 年にはクリスマス島で 24 回、ジョンストン島で 10 回。その間を縫うように、1957 年～58 年の間にはイギリスがクリスマス島で 9 回の水爆を交えた核実験を行っています。合計 94 回の核実験が行われているのです。その中でもメガトン(Mt)級のものが 17 回も行われています。ちなみに広島に投下された原爆は 15 キロトン(Kt)、1954 年 3 月 1 日のブラボー実験は15Mtで、広島の 1000 倍の大きさと言われています。先日NHKスペシャルで紹介された調査船「拓洋」が調査航海中に行われた実験は 1958 年 7 月 2 日に行われた「ポプラ」と呼ばれるもので 9.3 Mtの大きさでした。

サモア船団について

室戸で元船員さんに話を伺う中で、「サモア船団」という言葉を聞くことがあります。R さんは次のような話をしてくれました。

「ビキニはアメリカがやり、ギルバートはフランスがやり、クリスマス島はイギリスか。核だらけや。私は、サモア船団に行ったことがある。六隻くらいで行った。昭和 33 年に行って 34 年に帰ってきた。



太平洋での核実験　執筆者　Koki Usami｜2023 年 08 月 31 日｜Global

その時は、〇〇丸だったと思う。その時にマーシャルの近くを通っていくのだが、危険区域にちょっと入ったことがあった。その時、ヒコーキから手紙が落とされ、『すぐに危険区域から出るように』と書かれていた。」
（2024.02.07　元船員からの聞き取り）

サモア（南緯 13 度西経 171 度）は、ポリネシアにある小さな島国です。日本からの距離は約 7500 ㎞だそうです。

サモアに船団を組んで行くとはどういうことなのでしょうか。もちろん、その海域でマグロが沢山獲れたということなのですが、実はサモアには「ヴァン・キャンプ・シーフード社」というアメリカの缶詰会社があったのです。もともとカリフォルニアにあったツナ缶をつくる会社です。ビンチョウマグロは長時間蒸すとチキンのような味になるということで、それを缶詰にして売るということをやっていた会社です。

一方日本も、貴重なたんぱく源としてマグロは重視されましたが、アメリカにも多く輸出されていました。アメリカの文化史を研究されている土屋由香さんは、「戦後日本のマグロ遠洋漁業が急成長した背景には、冷戦に起因するアメリカ政府の後押しがあったから」だとも指摘しています※1。

ヴァン・キャンプ社は、1953（S28）年にサモアに缶詰工場をつくり操業を始めました。当時、「30～40 隻の日本のマグロ船がヴァン・キャンプ社と専属契約を結んでいたといわれています※2。

サモアに行っていた高知のマグロ船

先に紹介した元船員さんの証言は、このヴァン・キャンプ社と契約し、操業していたということだろうと思います。高知からどれくらいの船がサモア周辺海域に行っていたのでしょうか。室戸岬船員同志会の機関誌「遠洋」には「同志会所属船名簿」が掲載されており、その中に「サモア出漁船」として「第 8 大鵬丸」「第 7 嘉栄丸」「第 3 嘉栄丸」「第 11 勝丸」「大光丸」が記されています※3。また、これらの船は「日冷」と契約していたようです。

池田竜介さんという方が「サモアで感じたこと」という題で投稿しています。当時の様子が伝わってきますので紹介します。

『サモアで感じたこと』　池田竜介

高知県室戸市から南太平洋サモア諸島海域に出漁。現地アメリカ系缶詰会社のためにマグロを獲っていた私たち(99t)は正月を前に暮れ近く、一年半ぶりに室戸岬に帰ってきた。故国から一万一千キロ離れた洋上で喜びと悲しみをともにした仕事の中に、私たち日本遠洋漁船漁夫と現地住民との感情的対立を和らげる私設外交官の役割も果たした。また、働いても収入の上がらぬ漁民が今後どう進むべきかについてもひとかどの見識を身に着けてきた。では、私たちの航路を追ってみよう。

四国の剣山から太平洋に突き出た尾根の突端が三崎になっている。ここに 3 万 3 千の人々が住んでいる。「室戸市」である。敷地もなく、陸上交通は不便、室戸の人々が生活を立てるには海に出ていくほかはない。私も 7、8 年前に遠洋漁船の漁夫となり近海操業をしていたところが、利益配当もわずか、それに港々に上陸するごとに「小遣い」にはたいてしまうので金が残らない。そこへ、降ってわいたように私たちの漁労長からサモア行きの話が持ち込まれてきた。わたりに船と口約束で雇用契約を取り交わした。そして私たちは、昨年 6 月 18 日室戸を出港し、マグロを追って南へ南へと走った。

長い長い航路は死ぬほど退屈だ、来る日も来る日も海原ばかり。やっと一か月走り続けてサモア諸島ツツイラ島パゴパゴ港の桟橋に横付けすることができた。日

冷倉庫に陸揚げする。それが住むと上陸だ。だが同島にはアメリカ海軍の補給基地があるので、日本人の上陸時間は、午前 8 時から午後 10 時までと厳しく制限され、映画を見ても途中で引き返さなければならない。また、サモア人は日本人を見ると「マシ　カ　シガレキ」(煙草を一本くれ)と寄ってくる。なければ石を投げる。アメリカ当局の禁止時刻である午後 10 時の門限をわすれ、モンキーハウスに入れられると、朝 8 時から 2 時間いろいろな仕事をさせられる。24 時間で釈放されるが、現地人の看守は、仕事ぶりが悪いと言ってこん棒などでたたく。

しかし、私たちの悩みはほかにもまだある。入港時の小遣いの外貨配当がたった三ドル、船中では冷凍野菜しかないので、新鮮な野菜を補給しようと思っても三ドルの鐘では手が出ない。ビタミン不足で脚気などになる人も多い。今、サモアには、日本各地から40～50余隻の漁船、約1000人の漁夫がマグロを獲りに行っているが、アメリカも最近後退で魚の選別が厳しくなり、メバチ、カジキなど1尾20キロの大物は二束三文でしかとらない。船一杯獲れためばちなどを捨てるのは罰が当たると思うんですが、取って帰っても運賃にもならないものはとって帰るわけにもいかない。こんなありさまでは働いても収入が上がらない。私たち遠洋漁民も静岡県焼津でしているように、獲った魚を自分たち日本人で加工する設備を持ちたいものぞと思いました。これが私のサモアで得た教訓だった。(遠洋№.71 1961 年 2 月号　)

サモア方面での操業に関する記録

当時の新聞報道などから、マーシャル・クリスマス島・サモア方面での操業していたと思われる記述がいくつかありましたので紹介します。

▸21 日未明の米国水爆実験の行われる、約 12 時間前に日本の漁船一隻が発見され、脱出誘導された。船には「KN=79」の記号があった。(高知新聞 1956.5.22)

※1956 年 5 月 20 日の実験は、ビキニ島レッドウィング作戦「チェロキー」。

▸現在高知県漁連に登録されているマグロ漁船は 152 隻。このうち 200t 以上 5 隻、100t 以上 40 隻。計 45 隻がこの水域から南方方向で操業している。現在クリスマス島付近には 100t 以上の大型鮪船が 5、60 隻も出漁しており、これから 3、4、5 月が一番の好漁期で、この時期に核爆発実験をやられてはたまらない。(高知新聞 1957.1.13)

▸室戸地区ではクリスマス島近海へは例年 35 隻からが出漁して、年間 20 億円以上の漁獲高を上げている。(高知新聞 1957.2.27)

▸(室戸岬町では)所属船 75 隻中 20 数隻がクリスマス島周辺を漁場にしている。10 隻程サモア周辺で操業。(高知新聞 1957.4.29)

▸ク島東方に 60 から 70 隻？高知からも 5 隻。室戸漁業無線局で調べたところ、クリスマス島付近で操業中の漁船は室戸岬の大土佐丸(74t)、嘉栄丸(83t)、吉良川町の末広丸(94t)。室戸岬の進栄丸(60t)海昌丸(44t)が帰港中。(朝日新聞 1957.5.16)

核実験のさなかに通過・または操業している

1955 年以降、クリスマス島やサモア海域でこれだけのマグロ船が操業していることが明らかになっています。問題なのは、その漁場に行くときに、核実験が繰り返されているマーシャルの近くを通ること、さらに 1957 年にはクリスマス島でも水爆実験が行われていることです。ある意味 1954 年以上に深刻ではないかと思います。

※1、2　土屋由香「マグロ遠洋漁業とツナ缶産業をめぐる日米関係史」(中・四国アメリカ研究第 8 号　2017)

※3　県外船としてほかに 15 隻あります。(「遠洋」№.70　1961 年 1 月号)

〈サモア方面　操業船一覧〉※調査中間報告

サモアやその近海にて操業していたと思われるマグロ船の一覧表です。わかっている範囲ですので、このほかにもあると思われます。情報があれば教えてください。

船名	t数	備考
第3万寿丸	81t	遠洋№34(1957.7･8 月)
第5孝栄丸		
第7孝栄丸		
福栄丸		高知市
加宝丸		遠洋№34(1957.7･8 月)
松栄丸		
第3嘉栄丸	83t	1957.5.16 朝日　日冷 1959　1960.4　遠洋№56(1959 年 9 月)
第5嘉栄丸		遠洋№48(1958 年 12 月)　38 頁
第2幸鵬丸		遠洋№35(1957 年 10･11 月)　※第7幸鵬丸
末広丸	94t	※1957.5.16 朝日
第 2 進栄丸	60t	室戸岬？
第 3 進栄丸		※1957.5.16 朝日
海昌丸	44t	
KN=79		高知新聞 1956.5.22
大鵬丸		
大土佐丸	74t	1957.5.16 朝日　日冷 1959
第 5 大鵬丸		日冷 1959　1960.4
第 8 大鵬丸		日冷 1959　1960.4　遠洋№56(1959 年 9 月)
第 3 長久丸		※1958 年は遠洋№63(1960.5 月　33 頁) 日冷 1959　1960.4　遠洋№56(1959 年 9 月)
第 11 勝丸		日冷 1959　1960.4　遠洋№56(1959 年 9 月)
大光丸		日冷 1959　1960.4　遠洋№56(1959 年 9 月)
第 11 喜多美丸		報国母船船団　1959　1960.4　遠洋№56(1959 年 9 月)
海昌丸		報国母船船団　1959　1960.4　遠洋№56(1959 年 9 月)
繁栄丸		遠洋№50(1959.3 月)※号数など不明
達美丸		遠洋№50(1959.3 月)※号数など不明
安丸		遠洋№50(1959.3 月)※号数など不明
開明丸		遠洋№50(1959.3 月)※号数など不明

◆室戸の会　10 月「お茶会」 10 月 19 日(土)10 時半～13 時　　場所　室戸市菜生市民館